

専任教員の教育・研究業績

所属 スポーツ科学部	職名 教授	氏名 中山 健	大学院における研究 指導担当資格の有無	有		
<b>I 教育活動</b>						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
	平成27年4月～	担当している講義科目においては、書き込み式の配布プリントを用意し、必要事項を書き込みながらプリント作成する形式の講義を行なっている。また使用テキストの巻末レポート課題で受講生の授業理解を促している。また授業内容の理解を促進するために、視聴覚教材を多用することを心掛けている。学生の成績評価は平常点 (出席状況と課題レポート提出状況、授業内での発言) とレポートで評価している。様々な点から学生の成績を評価するため、授業評価アンケートでは「成績評価の方法」について批判的な意見はない。現在にいたる。				
2 作成した教科書、教材、参考書						
	平成25年4月～	上記のとおり、講義科目においては書き込み式のプリントを作成し、学生の授業内容の理解を促進するように努めている。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
<b>II 研究活動</b>						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
生涯スポーツ実践論—生涯スポーツを学ぶ人たちに—改訂4版	川西正志・野川春夫 編著	総頁p. 278 (分担) pp. 153-158	有限会社市村出版	東京	平成30年4月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月	
高齢者の運動実施に関わる社会心理的要因—トランスセオレティカル・モデル構成要素を用いたモデルの検証—	中山 健	応用老年学	15巻1号	12頁～25頁	令和3年8月	
総説						
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月
研究ノート	エンデュランススポーツ実践者のスポーツ価値意識	単 中山 健	スポーツ健康科学研究	43巻	57頁～68頁	令和3年
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国際	令和元年4月	2019 WORLD CONGRESS SOCIOLOGY OF SPORT	Social factors related to exercise self-efficacy for Japanese elderly	New Zealand ・ Otago大学	Takeshi Nakayama	
国内 (一般演題)	令和元年8月	日本生涯スポーツ学会第21回大会	集成的効力感が高齢者の運動実施に対する自己効力感に与える影響に関する研究	北翔大学	中山 健	
科学研究費等の取得状況						
科学研究費/その他の助成金/外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額 (期間内の総額)	
選択			選択			
特許						
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合 →	公告・特許番号	国
<b>III 加入学会および社会における活動</b>						
期 間	内 容					
加入学会						
平成9年3月～現在に至る	日本スポーツ社会学会					

平成9年4月～現在に至る	日本体育学会
平成11年9月～現在に至る	日本生涯スポーツ学会
平成18年7月～現在に至る	日本スポーツとジェンダー学会（平成29年7月より理事）
平成18年11月～現在に至る	日本老年社会学会
平成25年5月～現在に至る	ヨーロッパスポーツ社会学会
平成28年8月～現在に至る	日本社会学会
平成29年3月～現在に至る	国際スポーツ社会学会
平成29年3月～現在に至る	日本応用老年学会

社会的活動	
平成25年5月～現在に至る	高槻市スポーツ推進審議会委員（副会長）

#### IV 管理活動

期 間	内 容
委員会活動	
令和3年4月～現在に至る	学科連絡会議
令和3年4月～現在に至る	広報委員会
令和3年4月～現在に至る	大学院体育学研究科 広報委員会
令和3年4月～現在に至る	社会貢献センター運営審議会
特別プロジェクト活動	

#### V クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	ライフセービング 部	2. 役職	2013年～部長	3. 部員数	41 人
4. 現場指導の頻度	④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	1 回	延べ日数：	5 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	④ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所		
	全日本ライフセービング・プール選手権大会	5月上旬	神奈川県横浜国際プール		
	全日本ライフセービング種目別選手権大会	6月上旬	全国各所		
	西日本ライフセービング選手権大会	9月中旬	西日本各所		
	全日本学生ライフセービング選手権大会	9月下旬	千葉県御宿中央海岸		
	全日本ライフセービング選手権大会	10月中旬	神奈川県片瀬江ノ島西浜海水浴場		
	全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会	1月下旬	全国各所		

10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開 催 期 間	大会名	成 績	場 所
平成30年1月27～28日	第8回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会	100m マネキントウ・ウィズフィン男子 第3位（楠本瑞希）	富士水泳場（静岡県富士市）
平成30年1月27～28日	第8回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会	4×25m マネキンリレー男子 第3位（藤森佑輝，児玉拓二，楠本瑞希，田中太規）	富士水泳場（静岡県富士市）
令和2年1月25～26日	第11回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会	メドレーリレー（4×50m）女子 第3位（井田成美，後藤美咲，廣岡佐紀，和田優希）	富士水泳場（静岡県富士市）

**VI 賞罰（職務に関する賞罰）**

年 月	受賞等機関名	内 容	備 考